



## ▶ 提案書の全体像

1	はじめに	円卓会議の概要 ※ここには、皆さんの意見は 入っていません
2	居場所づくりに大切なこと	どのジャンル・カテゴリーにも 共通する意見
3	居場所づくりのアイデア ① 子育て ② 若者 ③ 高齢者 ④ 障がい ⑤ 地域づくり	個別のジャンル・カテゴリーに 特化した意見
4	おわりに	感想

### 今日やること

主にここをチェックして、「こういうことじゃない」と思うポイントを教えてください

2

## ▶ 提案書に関する意見

### 居場所づくりに大切なこと

- 居場所をやってみると、いつも会うメンバーが集まる傾向があった。
- 本当の居場所づくりは、そういう人たちを相手にするものではない。孤立者や要支援者への居場所づくりが急務だ。
- とはいえ、新たな人を集めたり、その運営を続けるためには、当然お金も必要だ。
- 会費を取ったり、自腹をきったりいろいろやってはいるけれど、やはり行政からの補助も必要だと感じているし、担当課にも訴えてきている。
- 運営費と担い手は最も大きな課題だと感じている。
- 誰が地域の担い手になるかは地域で解決していかねばならないと思うが、運営費については、近々で運営が建ちいかなくなることもあると思うので、どうしても行政の手助けが必要。

3

## ▶ 感想

- 最初の「どういう人に居場所が必要か」に対して、私は「若者」と答えた。  
日本中で少子高齢化が進んでいる。だから「未婚の若者が結婚する機会が増えたらいいな」と思った。  
人が人と出会える・つながれる場所が増えるのが必要だなと感じている。
- 「それなりの人が集まる場所」が居場所と捉えがちだが、自分は1人が好きだ。だが一方で、家族がいなくなっただけから自分が独りになったときのことを思うと不安もある。  
だから、一人が好きなのも、ある程度は外に出なきゃかな。居場所に対し市としてもサポートを強化して欲しい。
- 勉強になった。障がい者とその家族との付き合い方を考え、知ることができた。
- 始まる時、参加するのが楽しみだった。これから地域がもっと良くなってくれるなと感じた。
- 居場所と聞くと、ハード面を考えがちだが、人とのふれあいが大切なのだと改めて感じた。
- 若者の提案で「スマホをいじっている時間が増えて、直接の交流が減少している」と書いてあるが、自身もそうだけど、周りの人と話すのが苦手。
- 2回目から参加した。GRの話し合いとか、提案書を見て、改めて「つながりをつくるのが大切だ」と思った。
- 若者世代にまだ自分が入っていると思っているが、高校や大学に通っている人から話を聞いて、私たちの思う当たり前が、若い人の当たり前じゃないんだなと改めて感じた。

4

## ▶ 感想

- 地域には様々な人がいる。一人ひとりがそれぞれの様々な居場所を持っているのだと思う。自分は図書館によく行くのだが、いろんな年代がそれぞれ思い思いに過ごしているのを見る。  
居場所を難しく捉えて、難しくつくろうとしないで、もっと簡単な“住処”みたいなもので、一人でも楽しく暮らしていける環境があれば、それが居場所だと思う。
- 大勢の方々と話し合っただけで、心の栄養になった。  
みんなの体と心が豊かに、楽しくなればいいなと思う。これからもそれを共有できる仲間を大切にしたいと思う。
- 地域や居場所について考える機会があったが、みんなの意見を聞いてすごく勉強になった。これから、いいコミュニティづくりができるといいなと思う。
- 毎日予定があって忙しく、1日1日を短く感じている。誰かが居場所を必要としていて、どんな場所があると良いのかと聞かれると、空き家の活用が真っ先に思い浮かぶ。  
話し相手には高校生やボランティアも挙げられる。あえて「居場所」と呼ばなくても良いと思っている。
- 一人が好きで、自分が好きな場所は持っている。  
居場所が必要な人に提供しつつも、いらぬ人は適度に放っておくことも重要じゃないかと思う。
- 1・3・5回に参加した。  
日々の生活の中で、社会的な居場所が少なそうな人を見ることがある。  
会議では主に“若者”について話した。人と出会った時、一歩を踏み出す勇気が足りない人がいる。その一歩をサポートするのも居場所づくりだなと感じた。

5

## ▶ 感想

- 上町通りは、いまやシャッター街になっている。跡継ぎがないからというのがほとんど。少子高齢化が進む中で、もっと富岡に移住・定住してもらえる人が増えると良いと思っている。
- 地域の会議をするというだけでも、人数が収容できる会場がなくて困ることがある。まさに居場所がないと感じるのだ。補助が打ち切られて締めざるを得ない会場が増えてきている。空き家活用に向けて、行政への協力を依頼し続けて行こうと思う。
- いろんないい意見が出たけれど、どうやって実現していけば良いのかと考えると、なかなか担い手がいない現実が重い。集会所にはお金がかかるので、やはり行政からの補助協力は必要なのだ。周りの意見を聞きながら、少しずつ行動に移していきたい。
- 円卓会議には3年間出続けている。今年は若者と障がいのグループに参加した。職員の進行、みんなの意見もとても勉強になった。特に、障がいの「壁」という意見については、実感がある。話だけで終わらせるのではなく、誰がどう動いて実現していくのかが本当に大事なことだ。
- 色んな立場の人がいるが、実行していくリードが必要だと思う。少子高齢化の中で、若い人たちをフォローしていくことが本当に大切だと思った。
- 2回目から、子育てと障がいに参加した。普段思っていることでも、発言したことがいち市民の意見として取り上げてもらえることが良かった。
- 3回目から障がいに参加。皆さんの意見から色々なヒントをいただいた。地区内に特別支援学校があることは一つの強みだ。これからもっと協力連携を強化していければと思う。

6

## ▶ 感想

- 富岡市の居場所の現状がどんなものか知れた。これから、地域の行事にはどんどん参加していきたいし、友達にも広めて、一緒に参加していきたい。
- 円卓会議で得たものを、広報や日常の仕事に役立てたい。

7